

【和歌山プラン】

財政教育プログラムを活用した社会科公民的分野の実践

— 財政のプロとの協働により、子どもたちと国のあるべき姿に —
— ついて考え、主権者意識を育てる社会科授業の展開 —

和歌山大学教育学部附属中学校 山口康平

財務省大臣官房文書課広報室 當間和幸

【「和歌山プラン」のポイント】

☆ 「主権者教育」としての財政教育

社会科の目標は、「課題を追究したり解決したりする活動を通して、国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」を育てることです。私たちの生活の安定を支える租税の意義についての理解を深め、よりよい社会と財政のありようについて考えるこの授業は、社会を構成する一人として、社会の課題解決を主体的に担うことができる力を身に付けさせることをめざす主権者教育の考えとも合致するものです。

☆ 「社会的な見方・考え方」を働かせた思考力・判断力の育成を可能にする単元構成

新学習指導要領では、「効率と公正」などの「社会的な見方・考え方」を働かせながら、子どもたちの思考力・判断力を育てていくことが求められています。和歌山プランでは、我が国の財政問題という課題の解決策を探る本時の前に、どのような社会が望ましいか、そのための手だてと考え方について学習しています。このような単元構成により、「社会的な見方・考え方」を働かせながら、予算編成をすることが可能になっています。

☆ 子どもたちの多面的・多角的な思考を促す学習活動

ロールプレイという学習活動を通して、① 自分の位置、② 他者の立場、③ 国と社会のかたちという3つのフェーズで多面的・多角的な思考を促すことができます。

☆ 「主体的・対話的で深い学び」の実現

和歌山プランは、国の財政問題を解決するという課題を解決するための単元構成や、多面的・多角的な思考を促す学習活動によって、子どもたちの主体的で対話的な学びをめざすものです。さらに、単元の導入段階で、公共サービスと私たちの生活との関連を見直すことにより、財政の問題を「自分ごと」としてとらえさせます。このことにより、主体的な学びが生まれ、「学びたい」、「もっと知りたい」という学びのエネルギーが、財政のプロと出会い、自分たちが考えた予算案を聞いてもらうことで、より深い学びの実現をめざしています。

単元目標

① 国民生活の安定と福祉の充実における財政の役割と、それを支える租税の意義についての理解を深め、「社会的な見方・考え方」である効率と公正に着目しながら、よりよい社会と財政のありようについて主体的に考察する。

② 日本の国家財政に関する課題を把握し、財源確保の必要性とその希少性を踏まえて、財源の配分における受益と負担の両面性に基づいて考察し、解決に向けた構想を行う。

③ 財政の役割を踏まえ、国の予算を決める私たちの代表者を選ぶ選挙を模擬的に体験し、政治参加の重要性を考察する。

単元構成に あたって

本単元は、公民的分野(2)私たちと経済 イ「国民の生活と政府の役割」におけるゲストティーチャー（財務行政担当の専門家）とのTTによる財政教育プログラムである。中心となる活動は、ロールプレイを活用してグループごとに日本の歳出・歳入の予算案をつくり、それを学級全体で吟味し合うことである。

ロールプレイのポイントは、設定を変えた2回の活動を行うことである。1回目は、高齢者、子育て世代の人などの社会を構成する様々な人の立場に分かれ、私たちの生活と公共サービスとの関係を確認する。2回目のロールプレイでは、社会福祉、教育と科学技術振興などの担当大臣となり、各担当分野で大切なこと、その分野でできることを考えながら予算案を作成する。その際、財務行政担当の専門家であるゲストティーチャーとの連携を図ることで、子どもたちが考える国のあるべき姿を実現するための予算の編成について考えさせることが可能になる。

本時までの準備の段階では、担当教諭から公共サービスの役割と財源確保の必要性、また、どのような社会が望ましいか考えるための国内外の事例について学ばせておき、これらの既有知識を用いて予算案の作成ができるようにする。また、本時終了後には、自分たちの作った予算案を選ぶ投票活動を行い、主権者としての社会参画意識を高める。

単元計画 (全5時間)

第1時：【財政と公共サービス その役割と課題は何だろう？】

身の回りの公共サービスを通して、自分の生活と公共サービスとの関わりやその役割を見直し、財源確保の必要性和租税の意義を理解する。

第2時：【財政再建の手だてとその考え方を探ろう！】

どのような社会が望ましいか、そのための財政や社会保障制度のあり方について、国内外の事例をもとに財政再建の手だてとその考え方を理解する。

第3・4時（本時）：【日本の将来を考え、財政会議を開こう！】

様々な社会的立場の意見と財源には限りがあることを踏まえ、効率と公正の観点から私たちの生活や国の将来をより良いものにするための予算案を考える

第5時：【私たちの未来にふさわしい財政プランを選ぼう！】（模擬投票）

自分たちの作った予算案を選ぶ投票活動を通じて、民主主義という政治原理の重要性和、主権者として社会への参加意識を高める。

本時の活動と展開

ロールプレイ 予算案の作成と吟味

■ねらい

様々な社会的立場の意見と財源には限りがあることを踏まえ、効率と公正の観点から私たちの生活や国の将来をより良いものにするための予算案を考える。

ロールプレイの担当を示す札



「社会的役割」の例。

三角柱の残りの2面のうち、1面には「A社会福祉」などの担当大臣名を書いておく。

■準備物

- ・ ゲストティーチャーによる自己紹介スライド
- ・ ロールプレイの担当を示す札（右図参照）
（生徒1人あたり1つ）
- ・ 税とその使い道カード

（グループごとに準備。財務省『日本の「財政」を考えよう』

http://www.mof.go.jp/budget/fiscal_condition/related_data/zaisei201704.pdf より作成

- ・ ワークシート（1人1枚）
- ・ 予算記入用紙（グループに1枚）

■本時の展開 (3、4 時間目。100 分)

導入

(5 分)

- ・ゲストティーチャーによる自己紹介

活動 1

(10 分)

ロールプレイ 1
社会的立場に
分かれての
ロールプレイ

6つの社会的立場に分かれて、グループごとにロールプレイを行います。

「税とその使い道カード」を見てください。

自分が担当するそれぞれの立場の人にとって、大切だと考えられるカードを選びます。

カードは最大3枚まで選ぶことができます。

選んだカードについて、なぜ大切なのかを、同じグループの人に説明します。

- ・ロールプレイでの役割(社会的立場)は、次の6つ。

- ① 高齢者
- ② 子育て世代の人
- ③ 15年後に生まれる自分の子どもたち
- ④ 過疎に悩む町役場の人
- ⑤ ベンチャー企業の社長さん
- ⑥ 非正規雇用で働く人

- ・「税の使い道カード」は次の13種類。

- | | | | |
|--------------|----------|----------|-----------|
| ア 年金 | イ 医療 | ウ 介護 | エ 生活保護 |
| オ 少子化対策 | カ 地方交付税 | キ 公共事業 | ク 防衛 |
| ケ 教育 | コ 科学技術研究 | サ 食料安定供給 | シ エネルギー対策 |
| ス 国際協力 (ODA) | | | |



活動 2

(10 分)

意思決定 1
グループごとの
「あるべき日本の
姿」の話し
合い

自分が考える「あるべき日本の姿」をグループのメンバーに発表します。

全員が発表を終えたら、自分たちのグループはどのような国をめざすのか話し合い、予算案のコンセプトを決定します。

あとで、いくつかの班にコンセプトについて発表してもらいます。

- ・各グループでの意見がまとまったらいくつかの班に発表させ、子どもたちが予算編成の話し合いの方向性を確認できるよう、教諭とゲストティーチャーで連携して、質問やコメントを行う。

活動 3

(30 分)

ロールプレイ 2
担当大臣の役割
に分かれての
ロールプレイ

グループごとに決定したコンセプトに基づいて予算案を作成します。

まず、自分がどの担当大臣の役をするのか確認します。

次に、自分が担当する分野で大切なこと、その分野でできることを考えます。

また、自分が担当する分野について、予算の増額・現状維持・削減する点をグループのメンバーに説明し、予算要求をします。

グループでは、各担当大臣からの予算要求を受けて話し合い、来年度予算案を決定します。

- ・予算案は内閣が作り国会に提案で審議されるが、自分たちは大臣の立場にあるので、責任をもって議論して決めなければならないことを補足する。
- ・予算編成にあたっては、様々な社会的立場と財源には限りがあることを踏まえ、効率と公正の観点から私たちの生活や国の将来をより良いものにするための受益と負担を念頭においた話し合いができるよう適宜介入する。

活動 4

(30分)

討論による
予算案の吟味と
本時の振り返り

準備ができれば、いくつかのグループに発表をしてもらいます。

発表を聞く人は、積極的に質問をしてください。

質問がない場合は、ゲストティーチャーの先生から質問があります。

- ・グループからの発表は、高負担／低負担、高福祉／低福祉の2軸上に位置づけ、どのような提案なのかを黒板で分かりやすく示す。
- ・生徒からの質問がなければ、講師から質問する。
- ・いくつかの班の発表のあとに講師の方からまとめていただく。
- ・最後に感想を書かせる。



■当日の生徒の感想

世の中には色々な立場の人がいて、求めているものも全くちがうので、お互いの主張をききあわなければならず、とてもむずかしいなとおもいました。貴重な体験となりました。

財政は自分とは関係ないと思っていたけど、予算の使い道が自分の将来とつながっていると知っておどろいた。今までまったく興味がなかったけど、少し興味をもった。

皆、色々な立場で意見を言っていた。何かを変えるのはとても大変で、反発されることもあるのだと知った。これからはいろんなニュースを見聞きするけど、いろんな立場になって自分でも考えていきたいと思う。

たくさん議論して、物事を多面的に考えることから新たに分かることもあり、勉強になりました。日本の未来をよりよくするには、こうしてみんなで考えて、よりよい世界を目指すことが必要不可欠だと思いました。

■授業作成アドバイザー 岩野清美（和歌山大学教育学部准教授）

■参考資料

- ・租税教育推進関係者省庁等協議会『租税教育の事例集（中学校版）～租税教育の充実に向けて～』、平成27年 (<https://www.nta.go.jp/shiraberu/ippanjoho/gakushu/kyozai/jireishu/pdf/junior.pdf>)
- ・財務省『日本の「財政」を考えよう』、平成28年 (http://www.mof.go.jp/budget/fiscal_condition/related_data/zaisei201704.pdf)
- ・財務省『もっと知りたい税のこと』、平成25年 (http://www.mof.go.jp/tax_policy/publication/brochure/zeisei2507/)

本授業プランについての問い合わせ先

和歌山大学教育学部附属中学校 山口康平 社会科教諭 TEL: 073-422-3093
財務省大臣官房文書課広報室 當間和幸 課長補佐 TEL: 03-3581-4111